

2025年度 第2回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2025年11月5日(水)9時00分～12時50分
2. 場所 京都工芸繊維大学およびオンライン
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 松井良太, 三井和也, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 02-00_2025年度第2回鋼構造座屈小委員会議事
- 02-01_2025年度第1回鋼構造座屈小委員会議事録案
- 02-02_2026 座屈小委員会katsudo-keikaku-ver3
- 02-03-1_kankou-keikaku-国際連携WG-20251007
- 02-03-2_Front, Preface, Index_v1 - コピー
- 02-04-02章_圧縮材-本文-251105 (松井)
- 02-05-03章_筋かい材_本文の方針 (倉田)
- 02-06-01-5章柱材耐力-本文-1104 (城戸)
- 02-06-02-05章03節以降_柱材-本文-251105
- 02-06-03-05章03節以降_柱材-解説-251105
- 02-07-01-06章_板要素_本文_原稿案_1105
- 02-07-02-06章_板要素_解説_原稿案_1105
- 02-07-03-06章_目次案_1105
- 02-08-01-08章_骨組
- 02-08-02-08章_DM
- 02-09-20251105usami基規準と実設計の乖離
- 02-10-2025-09-津田-Gファクタを用いた柱の座屈長さ係数評価の現況 (参考・城戸)

5. 議事内容

資料02-01

- ・資料02-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された.

資料02-02

- ・活動計画書について金尾主査より説明がなされた. 指針刊行までのスケジュールを確認した.

資料02-03-1~2

- ・諸問題英文化の刊行計画書の確認を行った. 薛先生, 西村先生に9/17に学会から査読依頼をしている. 刊行計画書については, 刊行委員会からの回答待ちである.
- ・諸問題英文化の序論について, 倉田委員より説明がなされた. SSRC側の序論の査読の要否, ロゴ, 冒頭に掲載する著者 (発刊時とするか) について金尾主査より高畑さんに確認する.
- ・序論を読み, 気になる点がある場合は倉田委員に連絡すること.

資料02-09

- ・基規準と実設計の乖離について宇佐美委員より資料の説明がなされた.
- ・本指針では塑性変形能力について示していくことに力を入れているため, 梁の横座屈補剛とブレースが記述の対象となりうる.
- ・序章に概要を記載し, 細かい内容は関連する章において記述する. 骨組に記述することも考えられる.

資料02-08-1~2

- ・ 8章骨組について、田川委員より現行指針の内容について説明がなされた。
- ・ 筋交い付きの骨組に関する記述が8章骨組，3章筋交いの両方にある。筋交いのみの話は3章に、骨組も含む話は骨組に記載することとする。
- ・ 本文・解説ともに削除できる場所も探していく。不均等骨組の座屈長さを求める手法（坂本先生の方法）は削除することとなった。田川委員，倉田委員，宇佐美委員で相談しながら構成を決める。

資料01-07-1~3

- ・ 6章板材について、小橋委員より説明がなされた。
- ・ 本文と解説で図が重複しないよう、いずれか読者が読みやすいほうに入れる。
- ・ せん断降伏パネルについては、新しい知見を加える。制振設計指針との関連も確認しつつ、記述内容について検討する。

資料01-05

- ・ 3章筋かい材について、倉田委員より説明がなされた。
- ・ 座屈拘束ブレースは単独の節とする。また、芯材の耐力上昇率 α に関連して、耐力ブレースと制振ブレースの区別が必要ではないかという議論があった。制振設計指針に示されている内容で省略できる場所がないか検討する。松井委員が一部執筆担当をする。
- ・ 梁に軸力が生じる場合について言及できればよい。
- ・ 接合部の座屈の記述をすることとなった。おすすめの式をどれにするかは今後審議する。

資料01-06

- ・ 2章圧縮材について、松井委員より説明がなされた。
- ・ 変断面柱の骨組は、骨組に移動させる。
- ・ 曲げ座屈耐力の式は、限界状態設計指針の式を採用する。

資料01-06-1~3

- ・ 5章柱材の耐力の本文について、城戸より前回の議論を受けて修正した箇所について説明がなされた。全塑性耐力については、解説に示すということのみ本文に記す。
- ・ 5章柱材の5.3節以降の本文および解説について、三井委員より修正箇所について説明がなされた。補剛は限界状態設計指針の式とした。

その他

- ・ 本日の議論を踏まえて、執筆をつづける。
- ・ 解説のみに書かれている場合、「〇〇については解説に示す。」のように記載することとなっていたが、それが連続するとかえって読みにくくなる場合も出てきそうである。4章について、金尾主査が「〇〇については解説に示す。」を記載したバージョンと記載しないバージョンを提出するので次回審議する。
- ・ トラスの担当者を暫定的に松井委員とする。オブザーバーとして入っていただける企業の方を探すこととなった。

6. 次回小委員会予定

日時：2026年1月を予定

場所：ハイブリッド（東京）